



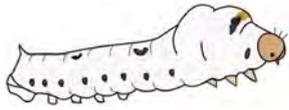
ここふる学校

かい「こ」育て日記

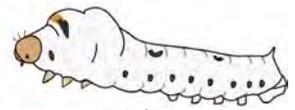


令和2年 7月21日 大野城心のふるさと館
事業担当 龍 友紀





かい「こ」育て日記 ①



カイコは長い間人間の歴史とともに歩んできた身近な昆虫です。こちらでは、カイコの歴史や生態はさておき、卵から成虫までの成長のようすを観察し、糸を取るまでをたどっていきたいと思います。第1回は、卵から1回目の脱皮^{だっぴ}までの成長です。

5/21 (木) ☀ カイコ^{とうちやく}到着！

カイコの卵を入手する方法はいくつかありますが、今回は少ない数から購入可能な通信販売で購入しました。飼育開始日に合わせてふ化するように調整された卵^{つぶ} 50粒と人工飼料1kg × 2本が郵送で送られてきました。人工飼料1本につき、20頭のカイコが育つとのこと。足りない分は桑^{くわ}の葉を調達してくることとし、飼育を開始します。



カイコの卵と餌

卵は思っていたより小さく、1つ1つが米粒^{こめつぶ}の半分程なので気を抜くと失くしてしまいそうです。小さな小さな卵ですが、光に当てるとうっすらと幼虫の影が見えます。



カイコの卵 幼虫が透けて見える

それから説明書を元に卵をタッパーにセッティングします。卵のふ化には温度と湿度^{しつど}が必要なため、キッチンペーパー^{しめ}を湿らせてタッパーに入れ、蓋^{ふた}をします。直射日光が当たると死んでしまうので、家で一番涼^{すず}しくて日が当たらない納戸^{なんど}に設置しました。



卵と保湿用の濡れティッシュ

5/23 (土) ♣ カイコのふ化

朝確認すると1匹がふ化していました。生まれたてのカイコは3 mmほどの黒くて小さい幼虫で、その姿から毛蚕けこや蟻蚕ぎさんと呼ばれています。夕方には約半分の21匹がふ化していました。

1匹が卵から出てくるまで10分程度かかります。卵をに穴を広げている間は長いのですが、一度出始めるとすぐに出てきます。幼虫が抜けた卵は真っ白になり、あの青い色が幼虫の色だったことがわかります。

成長を揃えるために翌日までは餌えさ無しでよいとのことでしたが、一応人工飼料を与えました。大きいソーセージのような見た目で、中身は深緑色をした塊かたまりです。桑の葉と大豆などのペーストたたみでできていて、新しい畳たたみのようなにおいがします。

生まれたカイコを餌のところに移動します。養蚕用語で「掃立ようさん」はきたてといい、羽箒を使いますが、数が少ないので筆で移し変えます。



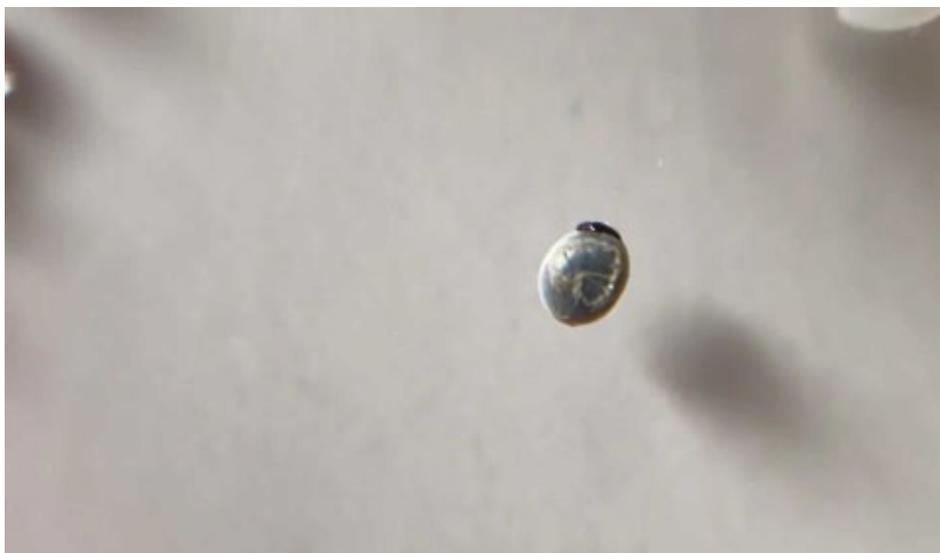
ふ化したばかりのカイコ



卵の殻をやぶるカイコ



糸を出してぶら下がるカイコ



カイコのふ化 クリックすると動きます (タイムラプス)

5/24 (日) ☀

一晩で結構糞いんをしています。昨日餌をあげたカイコは心なしか太くなり、色も薄くなっています。残りもかなりふ化がすすみ、全体の8割くらいが生まれました。一人前に糸を吐いてプラプラぶら下がるので、かえったカイコを移動するのが大変です。黒いので餌の上に乗せるとどこにいるかわかりません。



生まれて1日目のカイコ

5/26 (水) ☂

頭が太くなり、ずいぶんカイコらしくなってきました。急に大きくなるため、生まれたときの毛が無くなったように見えますが、よくみるとちゃんと生えています。数を数えると47匹。のこり3匹はまだかえっておらず、そのうち一つは卵がちょっと破れたまま出てきません。中で力尽きてしまったのでしょう。



生まれて2日目のカイコ

5/27 (木) ☀ 1回目の眠

2頭が餌の上からはずれ、じっとしています。「眠みん」といわれる脱皮前たっぴの状態にはいったようです。眠の間は動かすと脱皮できなくなるので、そのまま2匹をのこして残りをもう一つのケースに移しました。



1 齢の眠に入ったカイコ

5/28 (金) ☀ 2 齢幼虫に脱皮

朝、最初の2頭はまだ眠のままです。残りも追加で何頭かがじっとしています。



1 齢幼虫



1 齢幼虫の脱皮 クリックすると動きます (タイムラプス)

夜には数頭が脱皮を済ませていました。止まっていた場所に小さな抜け殻がらが落ちています。脱皮して2 齢幼虫になったカイコは模様が濃くなり、少し黒っぽくなっていました。鳥の糞ふんのようにも見えます。脱皮直前のカイコと脱皮前のカイコいちもくりょうぜんを比べると、違いが一目瞭然です。



1 齢幼虫の脱皮殻



脱皮直前のカイコ (右) と
脱皮後のカイコ (左)